

【 港区 】 胃がん検診 平成27年度プロセス指標等一覧シート

<国の指針に基づく胃がん検診の実施状況>

| | |
|--------------------|------|
| 対象年齢（50歳以上：隔年） | している |
| 検査方法（胃部X線または内視鏡検査） | している |

<住民の検診受診状況>

| | 男性 | 女性 | 男女計 |
|--------------------------|--------|--------|---------|
| 該当年齢の人口 | 59,698 | 70,456 | 130,154 |
| 【東京都調査による対象者率(区部)：58.2%】 | | | |
| 実際の受診者数 | 7,639 | 12,491 | 20,130 |

<国の指針に基づくもの以外の実施状況>

| | |
|------------|--------------|
| 対象年齢以外の実施 | 胃部X線(35～39歳) |
| 左記以外の検査の実施 | していない |

<区市町村の受診率向上(精検含む)体制>

| | |
|-----------------|-------|
| 対象者の名簿を作成して台帳管理 | している |
| 個別に受診勧奨 | 一部該当 |
| 過去5年間の受診歴を記録 | している |
| 精検未受診者への精検受診勧奨 | していない |

<がん検診の質を評価する指標(プロセス指標)>

| | あるべき値 (許容値等) | 男性 | 女性 | 男女計 |
|---------|-----------------|-------|-------|-------|
| 受診率 | 目標値50% | 22.0% | 30.5% | 26.6% |
| 要精検率 | 11%以下 | 8.8% | 7.4% | 8.0% |
| 精検受診率 | 70%以上 | 46.9% | 47.0% | 47.0% |
| 精検未把握率 | 10%以下 | 53.1% | 53.0% | 53.0% |
| 精検未受診率 | 20%以下 | 0.0% | 0.0% | 0.0% |
| 陽性反応適中度 | 1.0%以上 | 0.6% | 0.2% | 0.4% |
| がん発見率 | 0.11%以上 | 0.05% | 0.02% | 0.03% |

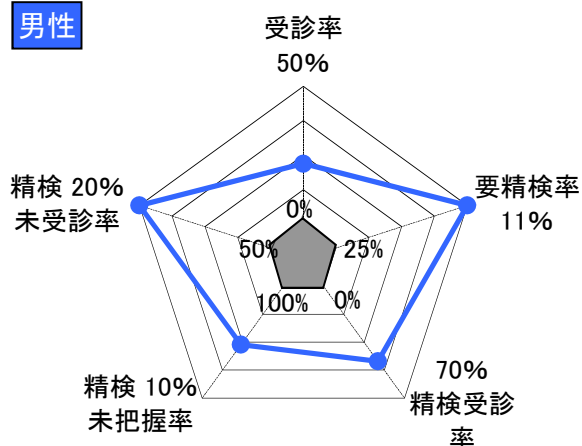
プロセス指標についての解説

リンク先:「とうきょう健康ステーション」>

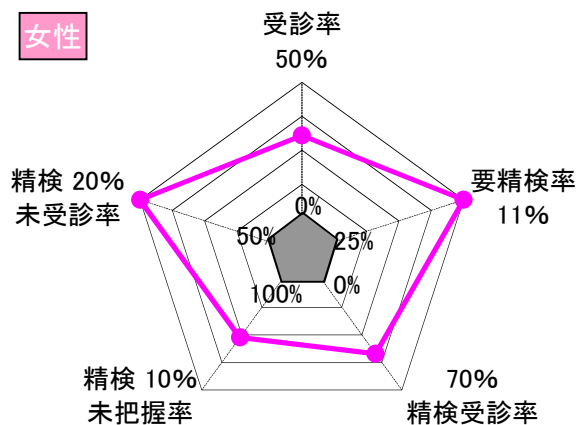
「統計に用いる主な比率及び用語の解説」

<http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/kensui/gan/toukei/data/kaisetu.html>

男性



女性



【評価結果】

<受診率>

『効果的ながん検診受診率向上の手引き』等を参考にして、受診率50%を目指す必要があります。

<精検受診率>

まずは許容値以上となるように、精検受診勧奨を行ってください。

<精検未把握率>

精検結果が把握されておらず、自治体が行う対策型検診としての事業評価が困難です。『がん検診精度管理向上の手引き』等を参考にして問題点を整理し、早急に精密検査結果を把握できる体制を検討してください。

【 港区 】 肺がん検診 平成27年度プロセス指標等一覧シート

<国の指針に基づく肺がん検診の実施状況>

| | |
|---------------------|------|
| 対象年齢（40歳以上） | している |
| 検査方法（胸部X線検査及び喀痰細胞診） | している |

<住民の検診受診状況>

| | 男性 | 女性 | 男女計 |
|--------------------------|--------|--------|---------|
| 該当年齢の人口 | 59,698 | 70,456 | 130,154 |
| 【東京都調査による対象者率(区部)：65.5%】 | | | |
| 実際の受診者数 | 10,229 | 16,854 | 27,083 |

<国の指針に基づくもの以外の実施状況>

| | |
|------------|-------|
| 対象年齢以外の実施 | していない |
| 左記以外の検査の実施 | していない |

<区市町村の受診率向上(精検含む)体制>

| | |
|-----------------|-------|
| 対象者の名簿を作成して台帳管理 | している |
| 個別に受診勧奨 | している |
| 過去5年間の受診歴を記録 | している |
| 精検未受診者への精検受診勧奨 | していない |

<がん検診の質を評価する指標(プロセス指標)>

| | あるべき値 (許容値等) | 男性 | 女性 | 男女計 |
|---------|-----------------|-------|-------|-------|
| 受診率 | 目標値50% | 26.2% | 36.5% | 31.8% |
| 要精検率 | 3%以下 | 3.9% | 2.6% | 3.1% |
| 精検受診率 | 70%以上 | 49.4% | 58.4% | 54.2% |
| 精検未把握率 | 10%以下 | 50.6% | 41.6% | 45.8% |
| 精検未受診率 | 20%以下 | 0.0% | 0.0% | 0.0% |
| 陽性反応適中度 | 1.3%以上 | 2.5% | 0.7% | 1.5% |
| がん発見率 | 0.03%以上 | 0.10% | 0.02% | 0.05% |

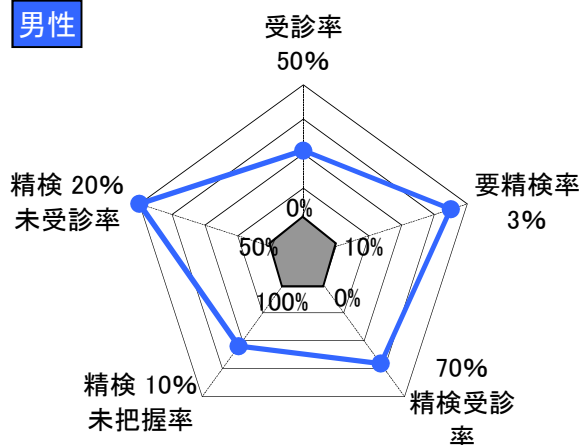
プロセス指標についての解説

リンク先:「とうきょう健康ステーション」>

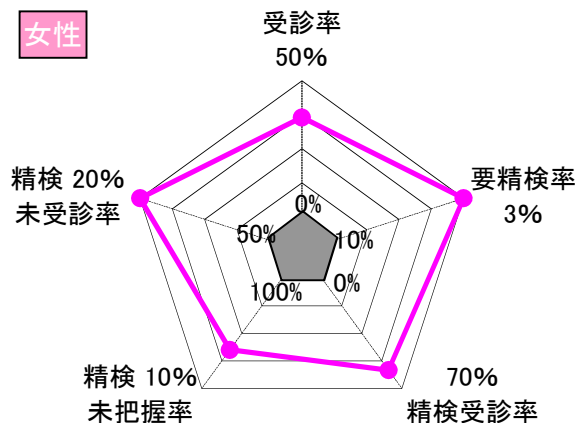
「統計に用いる主な比率及び用語の解説」

<http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/kensui/gan/toukei/data/kaisetu.html>

男性



女性



【評価結果】

<受診率>

『効果的ながん検診受診率向上の手引き』等を参考にして、受診率50%を目指す必要があります。

<要精検率>

要精検率が高くなるほど、「要精検」といわれたが実際にはがんではなかった方（偽陽性）の割合が増える可能性があり、受診者に身体的・経済的・精神的負担をかけるなど、検診の不利益が拡大する恐れがあります。また、受診者特性の変化により要精検率が高くなる場合もあります。

<精検受診率>

まずは許容値以上となるように、精検受診勧奨を行ってください。

<精検未把握率>

精検未把握率が非常に高く、自治体が行う対策型検診としての事業評価が困難です。『がん検診精度管理向上の手引き』等を参考にして問題点を整理し、精密検査結果の把握方法を検討してください。

【 港区 】 大腸がん検診 平成27年度プロセス指標等一覧シート

<国の指針に基づく大腸がん検診の実施状況>

| | |
|------------------|------|
| 対象年齢（40歳以上） | している |
| 検査方法（便潜血検査（二日法）） | している |

<住民の検診受診状況>

| | 男性 | 女性 | 男女計 |
|--------------------------|--------|--------|---------|
| 該当年齢の人口 | 59,698 | 70,456 | 130,154 |
| 【東京都調査による対象者率（区部）：62.3%】 | | | |
| 実際の受診者数 | 10,560 | 19,490 | 30,050 |

<国の指針に基づくもの以外の実施状況>

| | |
|------------|--------|
| 対象年齢以外の実施 | 35～39歳 |
| 左記以外の検査の実施 | していない |

<区市町村の受診率向上（精検含む）体制>

| | |
|-----------------|-------|
| 対象者の名簿を作成して台帳管理 | している |
| 個別に受診勧奨 | 一部該当 |
| 過去5年間の受診歴を記録 | している |
| 精検未受診者への精検受診勧奨 | していない |

<がん検診の質を評価する指標（プロセス指標）>

| | あるべき値 （許容値等） | 男性 | 女性 | 男女計 |
|---------|-----------------|-------|-------|-------|
| 受診率 | 目標値50% | 28.4% | 44.4% | 37.1% |
| 要精検率 | 7%以下 | 8.3% | 6.4% | 7.1% |
| 精検受診率 | 70%以上 | 37.6% | 41.4% | 39.8% |
| 精検未把握率 | 10%以下 | 62.4% | 58.6% | 60.2% |
| 精検未受診率 | 20%以下 | 0.0% | 0.0% | 0.0% |
| 陽性反応適中度 | 1.9%以上 | 1.4% | 1.6% | 1.5% |
| がん発見率 | 0.13%以上 | 0.11% | 0.10% | 0.11% |

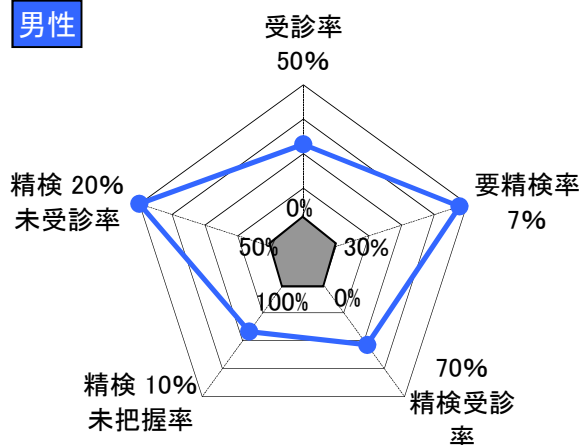
プロセス指標についての解説

リンク先：「とうきょう健康ステーション」>

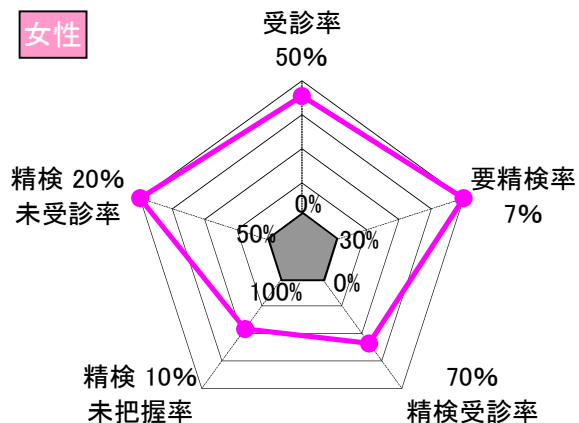
「統計に用いる主な比率及び用語の解説」

<http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/kensui/gan/toukei/data/kaisetu.html>

男性



女性



【評価結果】

<受診率>

『効果的ながん検診受診率向上の手引き』等を参考にして、受診率50%を目指す必要があります。

<要精検率>

要精検率が高くなるほど、「要精検」といわれたが実際にはがんではなかった方（偽陽性）の割合が増える可能性があり、受診者に身体的・経済的・精神的負担をかけるなど、検診の不利益が拡大する恐れがあります。また、受診者特性の変化により要精検率が高くなる場合もあります。

<精検受診率>

まずは許容値以上となるように、精検受診勧奨を行ってください。

<精検未把握率>

精検結果が把握されておらず、自治体が行う対策型検診としての事業評価が困難です。『がん検診精度管理向上の手引き』等を参考にして問題点を整理し、早急に精密検査結果を把握できる体制を検討してください。

【 港区 】 子宮頸がん検診 平成27年度プロセス指標等一覧シート

<国の指針に基づく子宮頸がん検診の実施状況>

| | |
|----------------|------|
| 対象年齢（20歳以上：隔年） | 毎年 |
| 検査方法（細胞診） | している |

<住民の検診受診状況>

| | 男性 | 女性 | 男女計 |
|--------------------------|----|---------|-----|
| 該当年齢の人口 | | 109,780 | |
| 【東京都調査による対象者率(区部)：66.3%】 | | | |
| 実際の受診者数 | | 20,340 | |

<国の指針に基づくもの以外の実施状況>

| | |
|------------|------------|
| 対象年齢以外の実施 | 間隔について毎年実施 |
| 左記以外の検査の実施 | していない |

<区市町村の受診率向上(精検含む)体制>

| | |
|-----------------|-------|
| 対象者の名簿を作成して台帳管理 | している |
| 個別に受診勧奨 | している |
| 過去5年間の受診歴を記録 | している |
| 精検未受診者への精検受診勧奨 | していない |

<がん検診の質を評価する指標(プロセス指標)>

| | あるべき値 (許容値等) | 男性 | 女性 | 男女計 |
|---------|-----------------|----|-------|-----|
| 受診率 | 目標値50% | | 35.9% | |
| 要精検率 | 1.4%以下 | | 2.9% | |
| 精検受診率 | 70%以上 | | 53.9% | |
| 精検未把握率 | 10%以下 | | 46.1% | |
| 精検未受診率 | 20%以下 | | 0.0% | |
| 陽性反応適中度 | 4.0%以上 | | 1.5% | |
| がん発見率 | 0.05%以上 | | 0.04% | |

プロセス指標についての解説

リンク先:「とうきょう健康ステーション」>

「統計に用いる主な比率及び用語の解説」

<http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/kensui/gan/toukei/data/kaisetu.html>

【評価結果】

<受診率>

『効果的ながん検診受診率向上の手引き』等を参考にして、受診率50%を目指す必要があります。

<要精検率>

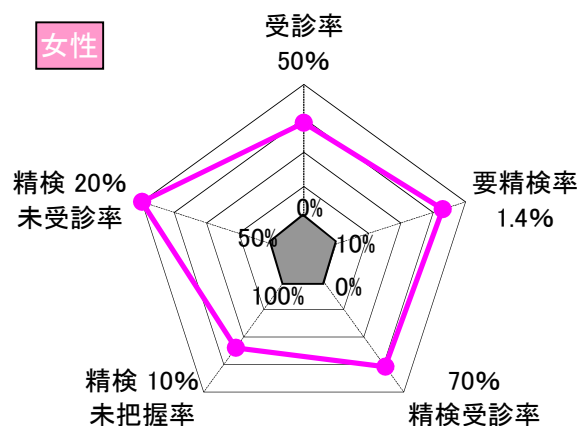
要精検率が高くなるほど、「要精検」といわれたが実際にはがんではなかった方（偽陽性）の割合が増える可能性があり、受診者に身体的・経済的・精神的負担をかけるなど、検診の不利益が拡大する恐れがあります。また、受診者特性の変化により要精検率が高くなる場合もあります。

<精検受診率>

まずは許容値以上となるように、精検受診勧奨を行ってください。

<精検未把握率>

精検未把握率が非常に高く、自治体が行う対策型検診としての事業評価が困難です。『がん検診精度管理向上の手引き』等を参考にして問題点を整理し、精密検査結果の把握方法を検討してください。



【 港区 】 乳がん検診 平成27年度プロセス指標等一覧シート

<国の指針に基づく乳がん検診の実施状況>

| | |
|----------------|------|
| 対象年齢（40歳以上：隔年） | している |
| 検査方法（マンモグラフィ） | している |

<住民の検診受診状況>

| | 男性 | 女性 | 男女計 |
|--------------------------|----|--------|-----|
| 該当年齢の人口 | | 70,456 | |
| 【東京都調査による対象者率(区部)：66.3%】 | | | |
| 実際の受診者数 | | 6,896 | |

<国の指針に基づくもの以外の実施状況>

| | |
|------------|---------------|
| 対象年齢以外の実施 | 30～39歳、毎年 |
| 左記以外の検査の実施 | 視触診のみ(上記年齢対象) |

<区市町村の受診率向上(精検含む)体制>

| | |
|-----------------|-------|
| 対象者の名簿を作成して台帳管理 | している |
| 個別に受診勧奨 | している |
| 過去5年間の受診歴を記録 | している |
| 精検未受診者への精検受診勧奨 | していない |

<がん検診の質を評価する指標(プロセス指標)>

| | あるべき値 (許容値等) | 男性 | 女性 | 男女計 |
|---------|-----------------|----|-------|-----|
| 受診率 | 目標値50% | | 28.1% | |
| 要精検率 | 11%以下 | | 11.5% | |
| 精検受診率 | 80%以上 | | 68.0% | |
| 精検未把握率 | 10%以下 | | 32.0% | |
| 精検未受診率 | 10%以下 | | 0.0% | |
| 陽性反応適中度 | 2.5%以上 | | 4.0% | |
| がん発見率 | 0.23%以上 | | 0.46% | |

プロセス指標についての解説

リンク先:「とうきょう健康ステーション」>

「統計に用いる主な比率及び用語の解説」

<http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/kensui/gan/toukei/data/kaisetu.html>

【評価結果】

<受診率>

『効果的ながん検診受診率向上の手引き』等を参考にして、受診率50%を目指す必要があります。

<要精検率>

要精検率が高くなるほど、「要精検」といわれたが実際にはがんではなかった方（偽陽性）の割合が増える可能性があり、受診者に身体的・経済的・精神的負担をかけるなど、検診の不利益が拡大する恐れがあります。また、受診者特性の変化により要精検率が高くなる場合もあります。

<精検受診率>

まずは許容値以上となるように、精検受診勧奨を行ってください。

<精検未把握率>

精検未把握率が非常に高く、自治体が行う対策型検診としての事業評価が困難です。『がん検診精度管理向上の手引き』等を参考にして問題点を整理し、精密検査結果の把握方法を検討してください。

